

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4072500343
法人名	社会福祉法人 道海永寿会
事業所名	グループホーム いこいの家
所在地 (電話番号)	福岡県大川市大字道海島660番1 (電話) 0944-88-1017

評価機関名	(株)アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	2008年9月16日	評価確定日	2008年10月10日

【情報提供票より】(2008年8月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	14人, 非常勤 2人, 常勤換算 4.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造スレート葺き平屋建て造り 1階建ての1階部分
------	-----------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
または1日当たり				

(4) 利用者の概要(8月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	2 名		
年齢	平均 85.1 歳	最低	66 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	道海クリニック / 高木病院 / 松岡病院 / 岡歯科
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームいこいの家は、木造平屋造りの2ユニット、2棟からなるホームである。母体法人は、介護老人福祉施設等、計15種類の福祉サービスを有し、老人保健施設やクリニックが隣接している。敷地内には、30種を超える草木が植えられ、畑や遊歩道の整備とともに、一角には観音像とベンチが置かれ、入居者が戸外でも楽しめるように工夫がなされている。実際には地域住民との憩いの場にもなっている。室内は大きな窓からの採光が明るく、入居者が活動し、くつろげる十分なスペースが確保されている。居室についても同様に7.5畳の広さが開放的な空間となっている。また、当ホームは、法人内の他事業所とも連携が取れ、行事や研修等が効果的に行われている。例えば、納涼祭や文化祭は、地域行事としても根付き、地域からの参加者も多く見られる。研修についても、組織的・計画的に実施され、OJTや個別の勉強会も盛んである。職員が講師を務める2級ヘルパー養成講座も開催され、職員のスキルアップ向上にも役立っている。また、早くから学習療法を積極的に取り入れ、入居者一人ひとりの支援に活かされている。学習することにより、会話のきっかけが生まれ、多様なサービスを利用する為の基礎体力が養われる等の効果が得られている。職員は、次につながる多様なサービスを確保し、生み出す工夫と努力を、日々、誠実にっており、今後の更なる展開が楽しみなグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果については、ホーム内で閲覧可能な状態にし周知に努めるとともに、運営推進会議にて報告し、意見を求める等、積極的に取り組んでいる。指摘事項については、見直しを行い、できるところから取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価及び自己評価について、その意義を理解し、前回の指摘事項を踏まえ、主体的に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回定期的に実施している。参加者には、公民館長や家族の代表者・市職員・法人内の別のグループホームの職員の参加がある。内容については、運営状況や活動状況・外部評価結果等の報告がなされ、意見交換を行っている。また、避難訓練の参加や災害時の地域への協力依頼を行う等、積極的に運営推進会議を地域との連携に活かす取り組みを行っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	受付担当者・解決責任者・第三者委員会で構成される苦情解決の組織委員会を設け、運営に反映していくように努めている。ホーム内には苦情解決の仕組みをわかり易く明示したものを掲示している。また、運営推進会議や家族の面会時に意見の収集に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域の行事に参加したり、法人の行事に招く等、親睦を深めている。特に、毎年開催される納涼祭や文化祭は、地域の方々の参加や出店も見られ、地域の恒例行事のひとつとして浸透している。また、日常的にも、近隣の方が花を持参したり、敷地内の観音像の参拝に訪れる等の関係が築かれている。老人会・自治会の依頼を受け、職員が主体となり、「介護劇」の公演と、認知症に関する質疑応答を行い、地域における認知症の理解を高めている。地域の小学生ボランティアや看護師・ヘルパーの実習生の受け入れも積極的にを行い、地域における多様な関わりを築いている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	地域密着型サービスの趣旨を踏まえた法人理念のもとに、グループホームの理念・運営方針を独自につくりあげている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	理念のもとに基本方針を定め、研修会やOJTを通じて、職員間での周知を図り、その具体的な実践に取り組んでいる。また玄関の目に付きやすい場所に、理念・運営方針を大きく掲示し、日常的な意識づけを図っている。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	地域の行事に参加したり、法人の行事に招く等、親睦を深めている。特に、毎年開催される納涼祭や文化祭は、地域の方々の参加や出店も見られ、地域の恒例行事のひとつとして浸透している。また、日常的にも、近隣の方が花を持参したり、敷地内の観音像の参拝に訪れる等の関係が築かれている。老人会・自治会の依頼を受け、職員が主体となり、「介護劇」の公演と、認知症に関する質疑応答を行い、地域における認知症の理解を高めている。地域の小学生ボランティアや実習生の受け入れ等地域における多様な関わりを築いている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	外部評価について、その意義を理解し、指摘事項についても見直しを行い、主体的に取り組んでいる。また、評価結果についても、運営推進会議で報告し、意見を求めたり、ホーム内で閲覧可能な状態にする等、外部評価を活かした取り組みを行っている。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	2ヶ月に1回定期的実施している。活動状況や外部評価結果の報告等を行い、意見交換を行っている。また、避難訓練の参加や災害時の地域への協力依頼を行う等、積極的に運営推進会議を地域との連携に活かし取り組みを行っている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	市担当課とは、必要に応じて実状や取り組みについて報告や相談を行っている。また、気軽に相談できる関係を築いている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	現在、制度の利用者はいない。成年後見人センターに資料を求め、パンフレットの掲示や配布を行い、制度の周知に努めている。必要に応じて、入居者や家族への説明を行っている。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	「事業所便り」を季刊で発行するとともに、家族の面会時を利用して、近況報告を行っている。遠方の方については、月に1回電話連絡を行っている。金銭管理については、出納帳を作成し収支を明確にし、家族から確認のサインをもらっている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	受付担当者・解決責任者・第三者委員会で構成される苦情解決の組織委員会を設け、運営に反映していくように努めている。ホーム内には苦情解決の仕組みをわかり易く図示したものを掲示している。また、運営推進会議や家族の面会時に意見の収集に努めている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	馴染みの関係の大切さを認識し、職員の定着化と異動を最小限にとどめるように努めている。止むを得ない異動の場合は、職員間で申し送りを徹底し、入居者のダメージを最小限にとどめる配慮を行っている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	採用は、法人の規定にそって実施し、性別や年齢等を理由に採用対象から排除されることはない。法人内には、職員が講師を務める2級ヘルパー養成講座も開催され(参加者には勤務の配慮がなされる)、職員のスキルアップ向上にも役立っている。また、実技・学科・面接からなる正規職員への採用試験の扉も明確に示される等、自己実現の権利を保障している。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	高齢者虐待防止や接遇についての研修を通して、現場に即した人権教育を行っている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	職員研修については、法人全体で、部署・勤務年数・役職・OJT・OffJTと計画的・組織的に取り組んでいる。その内容は、事前アンケートにより、職員のニーズを把握し、それを踏まえた形で、実践的に行っている。研修後には、アンケートを実施し、理解度の把握・内容の評価を行う等徹底している。また、OJT日誌や研修記録から、日々の真摯な取り組みの様子が確認できた。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	毎年、外部講師を招き、学習療法研究発表会を実施している。本年より、法人内にとどまらず、西日本の学習療法導入施設と共に研究発表会を実施している。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居前に必ず見学を実施し、他の入居者や職員と接する機会を設けている。入居に不安がある場合等、必要に応じて家族の宿泊も可能となっており、入居者が安心して入居できるように支援している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	方言を交えた会話や料理・畑仕事・掃除等、暮らしの役割を共に担うことで、コミュニケーションを図り、入居者と職員の支え合う関係づくりに努めている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	入居前のアセスメントで、生活歴・職歴・既往歴等の把握を行い、入居後には日々の会話や行動の中から、思いや意向・得意なこと等を記録し、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	「包括的自立支援プログラム」様式を用いたアセスメントを始め、生活歴や日々の気づきを踏まえ、学習療法を導入した介護計画を作成している。看護の視点を踏まえた計画書やセンター方式の導入(部分的で良い)等を通して、より本人本位の計画書の作成を期待したい。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	6ヵ月ごとの見直しを始め、状況変化等、必要に応じて、担当者会議を開催し、現状に即した計画を作成している。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	少人数での外出や墓参り・畑仕事等、一人ひとりの希望に応じた柔軟な支援を行っている。法人内に15種の介護サービスがあり、必要に応じて相談に応じる体制がとられ、専門職などマンパワーが充実している。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	本人・家族の希望を尊重し、かかりつけ医の受診を支援している。また、協力医療機関への受診についても職員が同行し、適切な医療が受けられるように努めている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>事前に話し合いを行い、本人にとっての最善の方法が選択できるように考えている。グループホーム単独ではなく、多様な福祉サービスを有する法人全体として、終末期を支える体制がある。関係者と話し合い、看取りの方針など、ホームとしての取り組みを定めることが求められる。</p>		<p>医療連携体制加算の算定要件である「重度化した場合における指針」は、看取りに関する考え方・本人及び家族との話し合いや意思確認の方法等の看取りに関する指針を定めることが求められており、法人全体のバックアップ体制を含め、検討してほしい。</p>
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>					
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>					
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
23	52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>基本理念に人格の尊重を掲げ、個人情報保護法や言葉かけ等の研修を実施するとともに、実務の中で職員教育を行い、プライバシー確保の徹底に努めている。</p>		
24	54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>決められた日課や職員の都合を優先することではなく、職員は「待つ介護」を心掛け、一人ひとりの希望とペースを尊重したケアを行っている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
25	56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>米は、3食ごとに炊き、食材についても敷地内の畑で採れた新鮮な野菜や手作りの味噌を使用する等、食にこだわっている。また、食事のつぎ分けやトレイ・テーブル拭き・食器洗い等の準備・片づけは、入居者ができる範囲で役割を持ち、職員と一緒にやっている。</p>		
26	59	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>基本的には、毎日、午後の時間帯での入浴を実施しているが、本人の意向やその日の体調に応じて、臨機応変に対応している。単独での入浴を希望する方については、家族に相談し合意を得て行う等、個別のニーズにも柔軟に応えている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	食事の準備・片付け、掃除・畑仕事・洗濯物たたみ等、生活歴や得意なこと等を活かす場面を日常的に設け、本人の意向を確認しながら、役割を果たしていただいている。学習療法を導入し、一人ひとりの意向や状態に応じて、積極的に取り組んでいる。また、日常的には買物やドライブを楽しんでいただけるように取り組んでいる。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	入居者の希望やその日の体調・天候に応じて、買物や散歩・ドライブに出かけている。敷地内は広く、30種以上の植物が植えられ、遊歩道も整備され、散歩しやすい環境にある。また月に2回、バスハイクを実施し、遠方へも出かけている。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	職員は、施錠することの弊害を理解し、鍵を掛けないケアに取り組んでいる。安全面への配慮として、見守りの徹底や玄関にセンサーで反応するチャイムを設置する等、工夫を行っている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年2回、消防署立会いのもと避難訓練(夜間想定を含む)を実施している。運営推進委員でもある公民館長に参加を求め、地域への協力を呼びかけている。また、独自で毎月1回、緊急通報訓練を実施している。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	栄養摂取量については、毎食後、記録し量の確保に努めている。栄養バランスについては、管理栄養士に助言を受けている。また、一人ひとりの状態に応じた食事形態での提供を行っている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	室内は広く、大きな窓からの採光も良く、全体的に明るい。食事空間とくつろげる空間に分かれ、それぞれに十分なスペースが確保されている。調理台は、入居者も使用しやすい高さ・配置に工夫があり、作業しやすく動きやすい環境となっている。また、季節の花等も飾られ、暮らしに潤いを与えている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室は、7.5畳と広く、明るく開放的である。各室には、ベッドや家具・冷蔵庫・テレビ等が置かれ、一人ひとりの好みを反映した空間づくりを支援している。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			